

## 伊豆山復興まちづくりワークショップ

発行：令和4年9月

## ◆伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました！

令和4年8月28日（日）13時30分から16時30分まで、熱海市役所第1庁舎4階第1会議室にて、新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで、第4回伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました。

当日は、あいにくの天候でしたが、19名が参加され、ワークショップの目的と進め方をご理解いただいたうえで、復興まちづくり計画の進捗状況をご説明し、今後のまちづくりでできることについて意見交換を行い、共有していただきました。

日時：令和4年8月28日（日）13:30～16:30  
場所：熱海市役所第1庁舎4階 第1会議室  
参加者：19名



## ◆主な意見交換内容

## 1. 第4回 「これからの伊豆山地区をカタチにしよう」

第4回のワークショップでは、第3回ワークショップまでに取りまとめられた「みらいの伊豆山」を実現するために、みんなでできることは何かについて、5つのグループに分かれてアイデアや知恵を出し合い、意見交換を行いました。その後、自分のグループ以外で、どのような意見交換がなされていたかを共有し、自分のグループで再度意見交換を行いました。最後には「伊豆山でみんなでできたらいいアイデア」を取りまとめました。



## ◆復興まちづくり計画への反映状況・策定に向けて

伊豆山復興まちづくりワークショップは、参加者による復興まちづくりに向けた「アイデアを結集させる場」とし、意見交換や知恵を出し合う場として行ってきました。

第1回では参加者同士で今後話したいテーマを11に抽出しました。第2回で11のテーマから8つのテーマに絞り込み、グループごとに意見交換を深め、第3回で8つのテーマグループごとに参加者からの提案としてとりまとめました。

熱海市伊豆山復興まちづくり計画には、第3回までに参加者が取りまとめた提案を反映し、復興まちづくりの実施方針の内容に盛り込んでいます。

熱海市伊豆山復興計画検討委員会での議論を経て、9月2日に熱海市伊豆山復興まちづくり計画を公表しました。

## 伊豆山復興まちづくり計画に反映された8つのテーマ

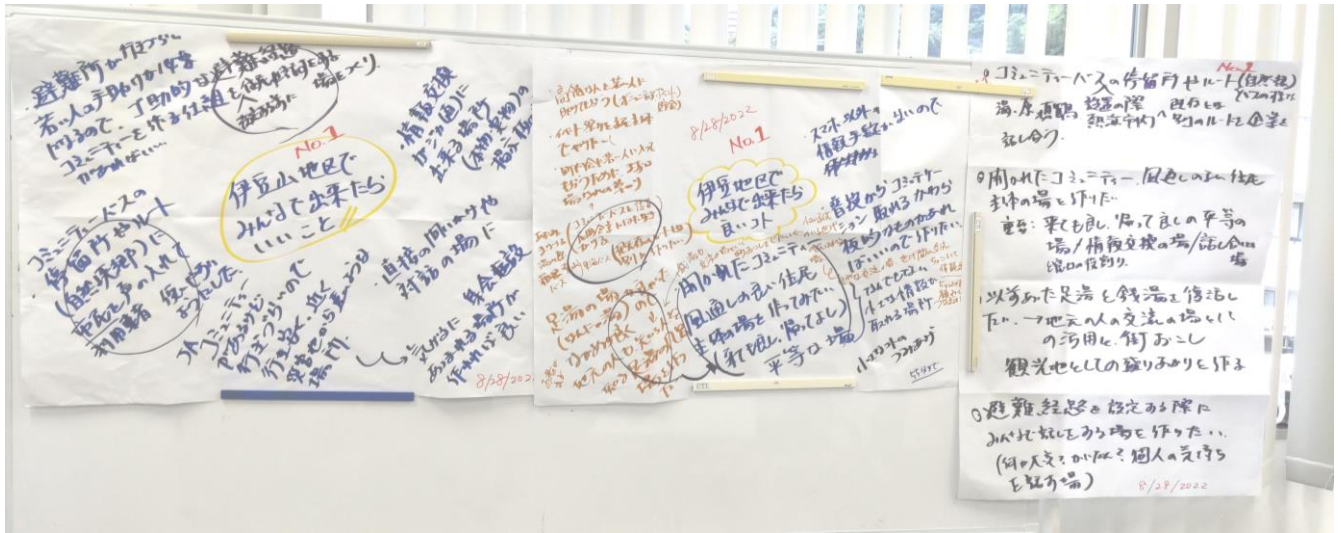
- 生活道路・公園・地域に必要な機能
- 避難所に必要な機能とは何か
- 地区内の街並みで大事なこと
- 若年層・子育て層に定住してもらうには
- 暮らしやすい伊豆山に必要なこと
- 町内会間の情報共有はどうしたらうまくいくか
- 防災体制・次の災害に向けて
- 補助・支援が必要なところ



## 2. ワークショップで取りまとめた各グループの「みんなでできたらいいアイデア」

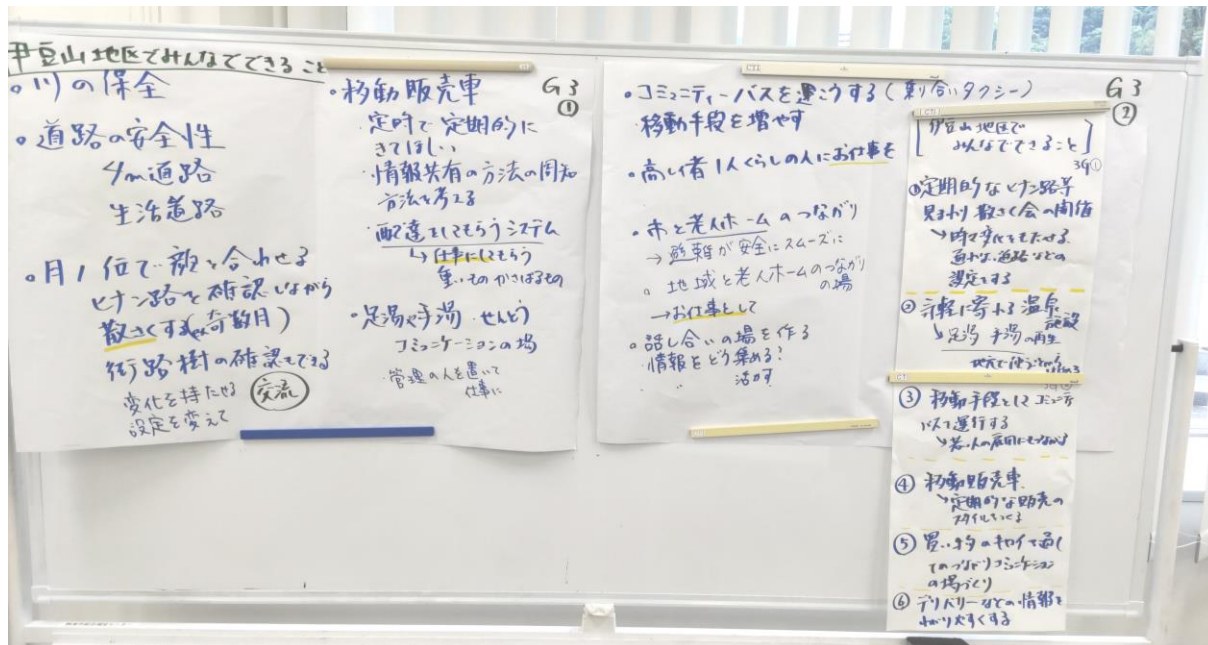
### 1グループ

- ① コミュニティバス設置の際の停留所やルート（自然郷）バスのような、湯河原、真鶴、熱海市内の既存とは別のルートを企業と話し合う。
- ② 開かれたコミュニティ風通しのよい住民主体の場を作りたい。重要：来てもよし、帰って良しの平等の場/情報交換の場/話し合いの場と窓口の役割。
- ③ 以前あった足湯と銭湯を復活したい。→地元の人との交流の場としての活用と街おこし、観光地としての盛り上がりを作る。
- ④ 避難経路を設定する際に、みんなで話をする場を作りたい。（何が大変？階段？個人の気持ちを話す場）



### 3グループ

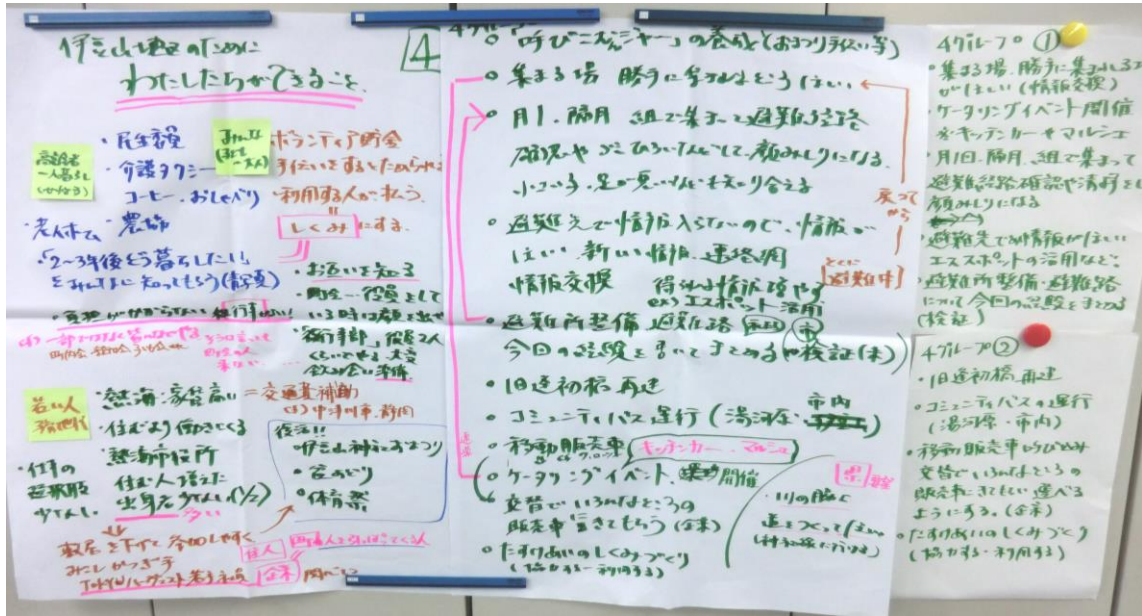
- ① 定期的な避難路等見回り散策会の開催  
→時々変化をもたせる。通れない道路などの設定をする。
- ② 気軽に寄れる温泉施設  
→足湯、手湯の再生。地元で使うことから始める。
- ③ 移動手段としてコミュニティバスを運行する  
→若い人の雇用にもつながる。
- ④ 移動販売車  
→定期的な販売のスタイルをつくる。
- ⑤ 買い物の機会を通してのつながりコミュニケーションの場づくり
- ⑥ デリバリーなどの情報をわかりやすくする





## 4グループ

- ① 集まる場、勝手に集まれる場がほしい（情報交換）
- ② ケータリングイベント開催 ※キッチンカーやマルシェ
- ③ 月1回、隔月、組で集まって避難経路確認や清掃をし、顔見知りになる
- ④ 避難先での情報がほしい エスポットの活用など
- ⑤ 避難所整備・避難路について今回の経験をまとめる（検証）
- ⑥ 旧逢初橋の再建
- ⑦ コミュニティバスの運行（湯河原・市内）
- ⑧ 移動販売車呼び込み  
交代でいろんなところの販売車に来てもらい選べるようにする（企業）
- ⑨ 助け合いの仕組みづくり（協力する、利用する）
- ⑩ 呼びこむんジャーの養成（おまつりのお手伝い等）

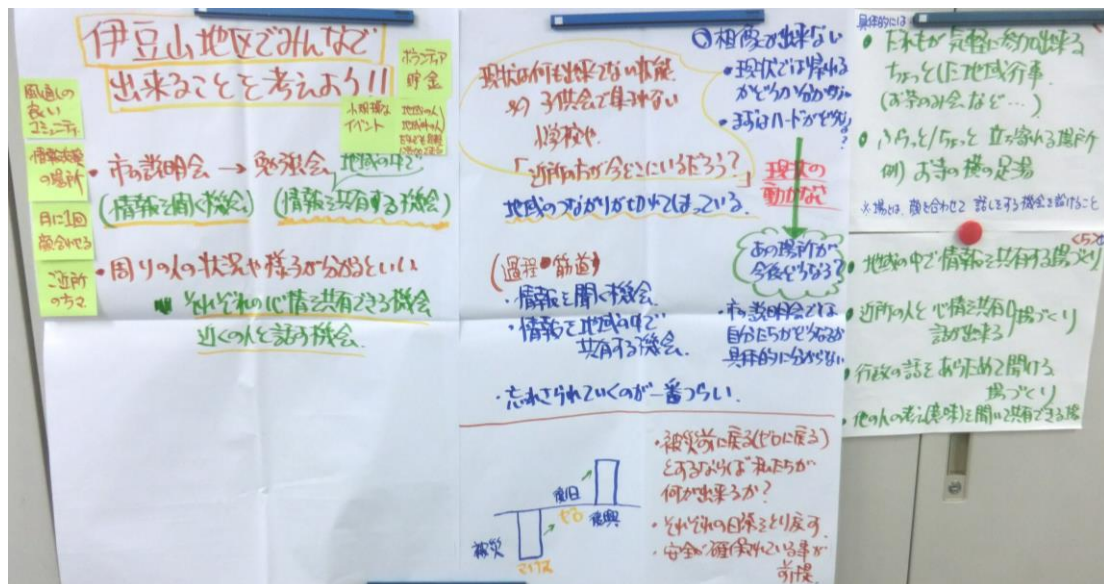


## 5グループ

- ① 地域の中で情報を共有する場づくり
- ② 近所の人と心情を共有・話ができる場づくり
- ③ 行政の話をもとめて聞ける場づくり
- ④ 他の人の考え（意味）を聞いて共有できる場  
＜具体的には…＞

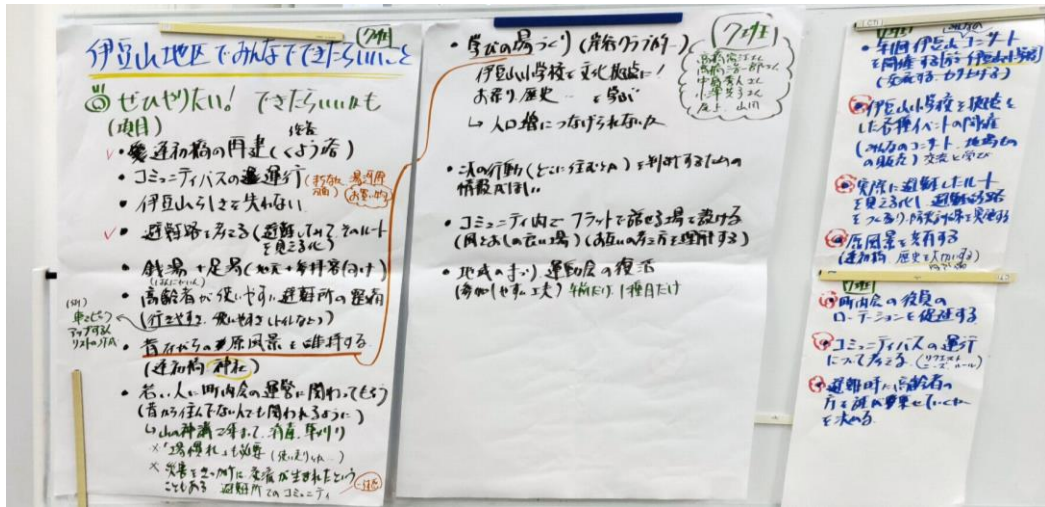
- ・だれもが気軽に参加出来るちょっとした地域行事（お茶のみ会など）
- ・ふらっと／ちょっと立ち寄れる場所（例：お寺横の足湯）

※「場」とは、顔を合わせて話をする機会を設けること



## 7グループ

- ① 伊豆山小学校を拠点とした各種イベントの開催（みんなのコンサート、地場ものの販売）交流と学び
- ② 実際に避難したルートを見える化し、避難道路をつくり防災訓練を実施する
- ③ 原風景を共有する（逢初橋、歴史を大切に）学ぶ場
- ④ 町内会の役員のリレーを促進する
- ⑤ コミュニティバスの運行について考える（リクエスト、ニーズ、ルール）
- ⑥ 避難時に高齢者の方を誰が乗せていくかを定める



※当初7つにグループ分けを行いました。参加者数に応じてグループを再構成し、(1, 3, 4, 5, 7)の5グループで実施しました。

### 3. 各グループでのふりかえりで交わされたご意見 ※いただいたご意見を原文のまま掲載

- ・話し合いの場をこれからも持ちたい、話し合うってコミュニケーションの大切さが分った。
- ・共通な必要事項として、情報共有やコミュニケーションが基本になっていると気がついた。
- ・情報交換等の必要性、コミュニティの整備の必要性を感じた。
- ・色々な考え方があって、まとめる事は難しいなと思いました。
- ・共通する話題が多かった、話し合いは楽しい！めざせ長寿！
- ・年輩の方の意見をしっかり聞く事。
- ・近くにいても、住んでいても、顔も知らない現状なので、やはり災害時には顔見知り程度、積極的な一歩を踏み出すのは大切。
- ・地域の人々とのコミュニティ（多くの仲間）ネットワークづくりを作り、みんなの顔を見て楽しく暮らすことの大切さを痛切に感じた。地形から、いろいろ困難もあるが努力することが大切。
- ・この災害が残した傷の大きさを改めて思いました。それでも、一歩でも前に進むために何かできることがあるのか考えることは、私にとって大事な時間になりました。
- ・すてきな伊豆山地域をイメージできた。
- ・自分たちでできることを考え、話し合ったが、現段階では、やはりイメージがわからない。目に見える形での復旧・復興が進んでいかない中なので、具体がもてない。
- ・“今”が安定していないので“未来”を想像するのが難しいな。と思いました。
- ・自分の事で精一杯で地域の事は二の次になってしまう。

### 第5回ワークショップの予定 ぜひご参加ください！

日時：令和4年9月25日（日）13:30～16:30

場所：熱海市役所第1庁舎4階 第1会議室

テーマ：「これからの伊豆山でできることを考えよう」

対象：警戒区域内にお住まいだった方（避難されている方）または 伊豆山浜・仲道・岸谷地区にお住まいの方

※新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者数に上限を設けていましたが、参加者数上限に達しましたため、申し込みを締め切りました。多数の参加申し込みありがとうございました。

※お申し込み済の方で、第5回ワークショップを欠席される場合は、下記までご連絡ください。

◆お問合せ◆ 熱海市役所 経営企画部 企画財政課 復興推進室

〒413-8550 静岡県熱海市中央町1-1

TEL 0557-86-6213/FAX 0557-86-6152

メールアドレス (fksuishin@city.atami.shizuoka.jp) まで